

令和4年度丹波市の教育（実施計画）重点施策

1. 「主体的・対話的で深い学び」の充実

- ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善推進のため、丹波市授業改善推進会議による具体的方策の検討と校内研修の充実
- ②1人1台端末の導入から2年目を迎え、「日常使い」から個に応じた学びに向けた「考える力を身につける活用」へのステップアップ
- ③課題解決型学習をとおして、多様な他者と協働しながら「わかった」「できた」と実感する「協働的な学び」の充実

2. 子どもたちの学びを支える教育環境の整備充実

- ①第6次学校施設整備計画に基づく、山南地域統合中学校の整備工事、久下小学校北校舎大規模改造及びエレベータ新設工事、感染症対策として緊急的に整備が必要なトイレの洋式化、小学校の危険遊具の撤去や改修
- ②通学路の安全対策として、丹波警察署、くらしの安全課、道路整備課と合同で危険箇所の確認、抽出による対策の実施
- ③令和5年度から令和9年度までの5年間の学校給食運営に関する基本的な事項を定める「丹波市学校給食運営基本計画（第3次）」を策定

3. 教育支援センター支援体制の充実

- ①教職員のキャリアステージに応じた研修機能の充実といじめや不登校の理解促進に向けた市民向け情報発信の強化
- ②臨床心理士を新規に配置し発達検査や教育相談を実施
- ③「いじめ報告・相談アプリ STOPit*」を活用した不登校児童生徒などの悩み相談への対応

4. 学校の働き方改革の推進

- ①教職員の心身の健康増進を図る学校閉庁期間延長
- ②保護者向けチラシなどの配布方法の電子化を関係機関へ要請
- ③学校への勤怠管理システム導入に向けた協議の開始

5. 「子どもたちに帰ってこいよと言えるまちづくり」に呼応し、郷土愛をはぐくむ教育施策の展開

- ①地域資源を活用してふるさとへの誇りと愛着をはぐくむ「たんばふるさと学*」や、未来を創る力を身につける「アントレプレナーシップ教育*」の実施
- ②丹波市ならではのフィールドとなる「丹波竜化石工房」や「氷上回廊水分れフィールドミュージアム」などでの体験学習により、地域に誇りを持つことができる子どもの育成
- ③丹波市の教育をみんなで考える新たな学びの場として「地域から考える学びの未来会議」を実施し、大人も子どもも楽しく学べるまちづくりにより教育（学び）の魅力を向上

6. コミュニティ・スクールの深化・充実

- ①「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」や「コミュニティ・スクール*連絡会」での各校の実践交流による深化・充実
- ②地域学校協働活動推進員*の増員を図り、地域と学校のつながりをさらに強化
- ③学校・家庭・地域が担う役割について考え、それぞれが子育ての当事者となるよう、各コミュニティ・スクール*の熟議開催を促進

7. 社会教育施設などのさらなる充実と連携

- ①「恐竜化石の活用に関すること」を教育委員会所管とし、「丹波竜化石工房」の拡張整備に着手
- ②学校の教室と博物館やフィールドなどをオンラインでつなぎ、地域の豊かな教育資源を学校教育にいかす「博学連携*」の充実
- ③コロナ禍における「新しい生活様式」の試みのひとつとして、電子図書館サービスの提供を開始

8. 新型コロナウイルスへの対応

- ①児童生徒の健康・安全を最優先に「学校に持ち込まない、学校に広げない」を基本に、引き続き感染防止対策を徹底した教育活動を展開
- ②感染拡大により臨時休業などになった場合でも、学びをとめない体制の整備構築
- ③誤解や偏見に基づく不当な差別、いじめなどの人権侵害が起きないように、正しい情報に基づき、適切な行動が取れる学習や啓発の浸透